

楠本 イネ (1827~1903)



日本人初の女医。産科医。肥前国長崎(現、長崎県長崎市)出身。シーボルトとお滝(楠本滝)の娘。シーボルト事件により父と別れ、宇和郡卯之町(現、西予市)の二宮敬作のもとで蘭学を学ぶ。医者になることを志し、弘化2(1845)年から25年間、西日本の各地で石井宗謙をはじめとするシーボルトの門下生や長崎に来ていた外国人医師から医学を学び、産科の最新技術を身につけ、安政元(1854)年からは、再び敬作のもとで修業した。明治3(1870)年、東京で産科を開業し、明治6(1873)年には、福沢諭吉らの推薦で宮内省御用掛になり、明治天皇の皇子御誕生に立ち会った。

略歴

文政10(1827)年5月6日	肥前国長崎に生まれる。
文政12(1829)年12月5日	父シーボルト、シーボルト事件により国禁(入国禁止)となり、日本を去る。
天保11(1840)年	宇和郡卯之町の二宮敬作のもとを訪れて蘭学を学び、医師を志す。
弘化2(1845)年2月	備前国岡山(現、岡山県岡山市)の石井宗謙のもとで産科を修業
嘉永4(1851)年10月	長崎の阿部魯庵のもとで産科を修業
嘉永5(1852)年2月7日	娘・高子が生まれる。
安政元(1854)年11月	宇和郡卯之町の二宮敬作のもとで産科を修業
安政3(1856)年3月	二宮敬作とともに長崎に帰郷
安政6(1859)年	父・シーボルト再来日。再会を果たす。長崎において、ポンペのもとで産科を修業
文久2(1862)年	ボードインのもとで産科を修業
慶応2(1866)年	マンスフェルトのもとで産科を修業
明治3(1870)年2月	東京に出て、築地に産科医を開業
明治6(1873)年7月31日	宮内省御用掛を拝命
9月7日	若宮誕生に携わる。
明治36(1903)年8月26日	東京において77歳で永眠

(写真提供：大洲市立博物館)

〈関連図書〉

- ・板沢武雄『シーボルト』 吉川弘文館 1960年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・吉村昭『ふおん・しいほるとの娘』 新潮社 1993年
- ・福井英俊『『鳴滝紀要』創刊号一九九一年別刷 楠本・米山家資料にみる楠本いねの足跡』
シーボルト宅跡保存基金管理委員会 1994年
- ・田中周二『シーボルト 参勤旅行日記』 思文閣出版 1997年
- ・宮崎道生『シーボルトと鎖国・開国日本』 思文閣出版 1997年
- ・『平成9年企画展 伊予の蘭学』 愛媛県歴史文化博物館 1997年
- ・『特別展図録 三瀬諸淵 シーボルト最後の門人』 愛媛県歴史文化博物館 2013年

〈ゆかりのある場所〉…(P268, 19)

〈関連施設〉…宇和先哲記念館

〒797-0015 愛媛県西予市宇和町卯之町4丁目327番地 TEL: 0894-62-6700

シーボルト記念館

〒850-0011 長崎県長崎市鳴滝2丁目7番40号 TEL: 095-823-0707